

向出遺跡範囲確認調査報告書 II

2009年

阪南市教育委員会

## はしがき

向出遺跡は昭和62(1987)年度に教育委員会が実施した埋蔵文化財分布調査で、数点の縄文土器と多数の石器やその石材破片などが採取されたことによって、周知された遺跡です。

平成9(1997)年には(財)大阪府文化財調査研究センターが国道26号線(第二阪和国道)延伸に先立つ発掘調査を遺跡南東部で行い、数百基に及ぶ縄文時代の土坑墓が発見され、当時「西日本最大級の土坑墓群」としてマスコミを賑わせました。

そのため、国の史跡指定を視野に入れ、遺跡の広がりを把握すべく、範囲確認調査を平成10(1998)年度から4カ年の継続事業として行いました。

その作業をさらに深めるために平成19(2007)年度から再度、範囲確認調査を行い、その成果をここに報告するにいたりました。

また、教育委員会では平成20・21年度で、有識者による評価検討委員会を行い、今後の向出遺跡のあり方を評価する作業を進めています。今後は当報告書や評価検討委員会の意見をもとに、史跡指定を視野に入れた向出遺跡の保存、活用をはかってまいります。

最後になりましたが、調査に多大なるご協力をいただきました土地所有者の皆様に感謝を申し上げますとともに、今後ともご尽力賜りますようお願いいたします。

2009年3月

阪南市教育委員会



第1図 阪南市位置図

## 例　　言

1. 本書は阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課が平成19(2007)年、平成20(2008)年に国庫補助事業として計画実施した、阪南市埋蔵文化財報告「向出遺跡範囲確認調査報告書Ⅱ」である。
2. 調査は阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課三好義三、田中早苗、上野仁、田之上裕子(平成19年度嘱託)、横田明日香(平成20年度嘱託)を担当として行った。
3. 発掘調査について、07-10区は平成19年10月25日から平成20年1月18日まで田之上裕子が、08-4区は平成20年10月20日から平成20年12月9日まで、横田明日香が行った。
4. 本書内で示した標高はT.P.である。
5. 調査にあたっては土地の所有者など、関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
6. 本書の執筆、編集について07-10区は田中早苗、08-4区は横田明日香が行った。  
また、発掘調査、整理作業は下記の調査従事者による。
7. 本書における記録は、実測図、写真、カラースライド等に保存されている。当市教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

### (調査従事者)

根無吉隆、南竹千代、杉田正千代、黒川喬、和田旬世、井上祥子、井上進、  
島田万帆

## 目　　次

第1章　調査にいたる経過	1
第2章　調査の成果	
第1節　07-10区	5
第2節　08-4区	17
第3章　まとめ	23
報告書抄録	24

## 第1章 調査にいたる経過

向出遺跡は昭和62(1987)年度に阪南町教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査<sup>(1)</sup>で発見された遺跡である。その調査では縄文時代から近世期までの各時代の遺物が採取されたものの、明確に時期を特定できる縄文土器は採取されなかった。その後、数度の小規模な調査は行われたが、遺跡北部の96-2区<sup>(2)</sup>で、晩期の縄文土器が数点出土したのみであった。

平成9(1997)年、(財)大阪府文化財調査研究センターが国道26号線(第二阪和国道)延伸に先立つ発掘調査<sup>(3)</sup>を遺跡南東部で行い、数百基に及ぶ縄文時代の土坑墓を発見し、当時「西日本最大級の土坑墓群」としてマスコミを賑わせた。

また、平成11(1999)年度に阪南市教育委員会が調査を行った、上記調査区の南東側に隣接する00-1区<sup>(4)</sup>では縄文時代後期の土坑墓数基と人骨を検出した。

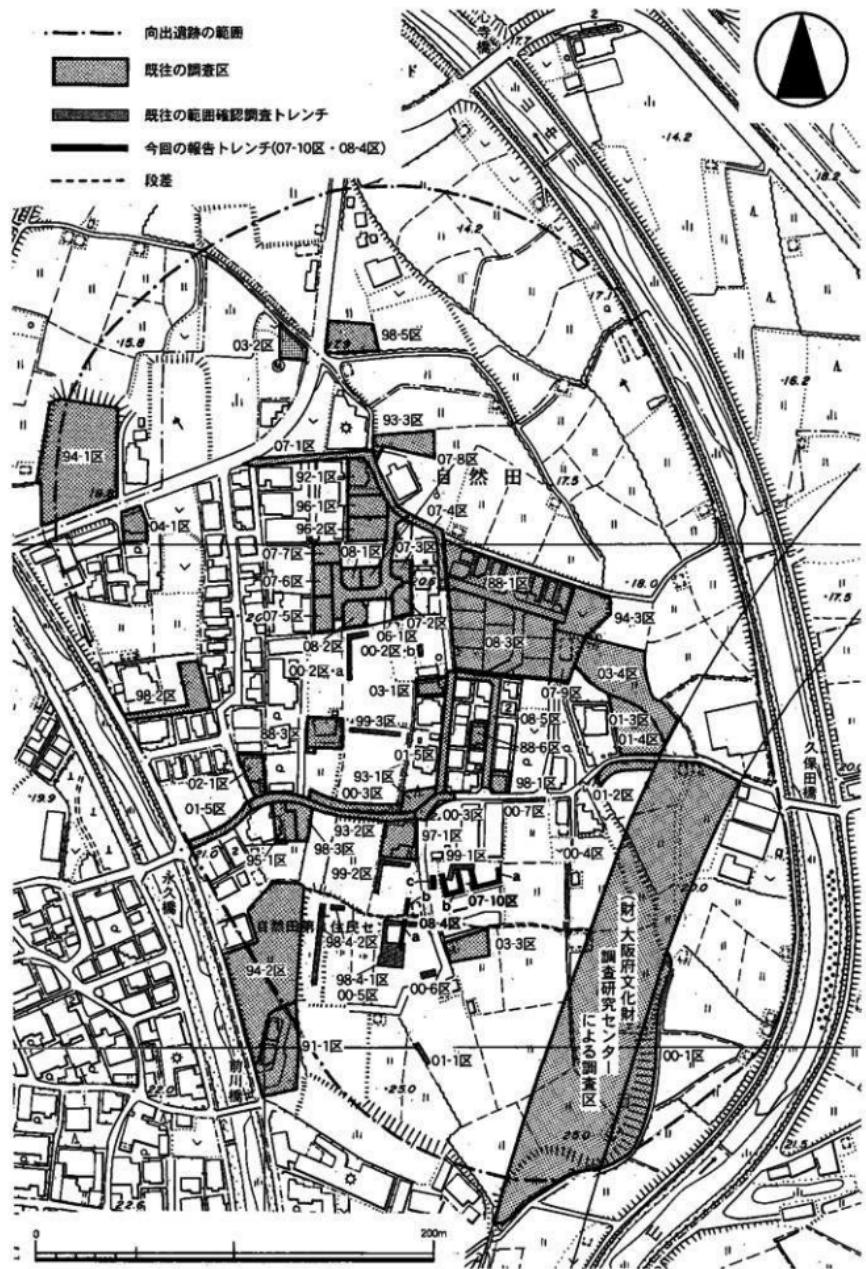
以上のことから、阪南市教育委員会では史跡指定を視野にいたる遺跡の範囲確認調査を平成10(1998)年から13(2001)年まで行い、限られたトレンチの調査ではあったが、ある程度の縄文時代の遺構の広がりを把握することができた。

その結果、縄文時代の遺構が集中するのは、遺跡南部を東西に走る段差より南側の高い部分のみであり、その北部には縄文時代の遺構の存在はなく、また、縄文時代の遺構が存在する地域でも東部は後期、西部は晩期の遺構が比較的多いなどの成果を得た。その成果については平成17(2005)年に刊行した「向出遺跡範囲確認調査報告書<sup>(5)</sup>」を参照願いたい。

しかし、その調査では縄文時代の遺構はなぜ段差を境になくなるのか、また、その段差はいつから存在したのかなどの解決には結びつかず、今回の調査に至った次第である。



第2図 阪南市埋蔵文化財包蔵地地図



第3図 向出遺跡既往の調査区・07-10区・08-4区 トレンチ位置図

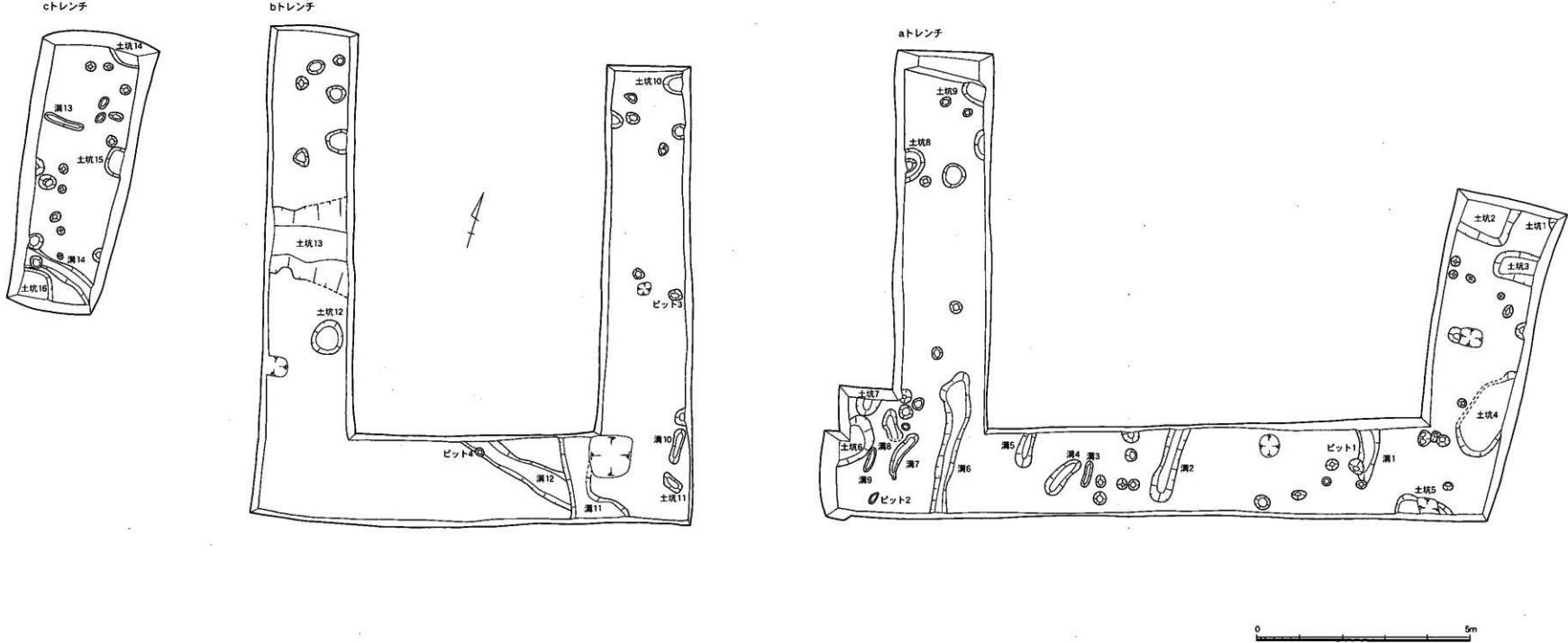
## 向出遺跡既往の調査一覧

調査区	検出遺構	出土遺物	関係資料
88- 1	ピット、落ち込み	サヌカイト、土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、須恵質土器、瓦器、靖蓋、土錐、瓦、陶器、磁器、石臼	
88- 3	土坑、溝、ピット	須恵器、土師質土器、瓦質土器、瓦、陶器	(2)
88- 6	落ち込み	土師質土器、瓦	
91- 1			
92- 1	土坑	サヌカイト、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦器	(4)
93- 1		土師質土器、土錐	(5)
93- 2		土師器、須恵器、土師質土器、陶器、磁器	
93- 3		サヌカイト、須恵器、黒色土器、土師質土器、青磁、鉄釘	(5)
94- 1			
94- 2			
94- 3			
95- 1	落ち込み	須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、瓦質土器	(6)
96- 1		縄文土器、土師器、須恵器、瓦器	(7)
96- 2		サヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、瓦器	(7)
97- 1		サヌカイト、須恵器、土師質土器、瓦器、靖蓋、陶器	(8)
98- 1			(9)
98- 2			(9)
98- 3			(9)
98- 4	土坑、ピット	サヌカイト、縄文土器、須恵器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、靖蓋、瓦、青磁、陶器、磁器	(14)
98- 5	落ち込み	土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、製塩土器、管状土錐、瓦、陶器	(10)
99- 1	土坑、ピット	サヌカイト、須恵器、黒色土器、土師質土器、須恵質土器、白土器、瓦器、瓦質土器、瓦、陶器	(14)
99- 2	土坑、ピット、落ち込み	土師器、須恵器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、管状土錐、瓦、石皿	(14)
99- 3	土坑、溝、ピット	土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、白磁	(14)
00- 1	土坑、溝、ピット、落ち込み	サヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、製塩土器、管状土錐、瓦、陶器、磁器、骨、鐵釘	(17)
00- 2	堅穴住居、土坑、溝、ピット、落ち込み	サヌカイト、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、有孔土錐、瓦、陶器、磁器、鐵鍊	(14)
00- 3	溝、井戸	サヌカイト、須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、靖蓋、管状土錐、瓦、陶器、磁器、鐵釘	
00- 4	土坑、ピット	サヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器	(14)
00- 5	土坑、ピット	サヌカイト、敲石、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、瓦、磁器	(14)
00- 6			(14)
00- 7	溝、落ち込み	サヌカイト、土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、瓦、陶器、磁器	(14)
01- 1	土坑、ピット、落ち込み	サヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、瓦、陶器、磁器、骨片、鐵釘	(14)
01- 2		土師質土器、瓦器、磁器	
01- 3		土師質土器、瓦器、瓦	
01- 4		土師質土器、瓦、陶器、磁器	
01- 5		土師器、土師質土器、瓦、備前、陶器、磁器、焼土	
01- 6		瓦	
02- 1	溝	陶器、焼土	(11)
03- 1		土師質土器、靖蓋、陶器、磁器	(12)
03- 2			(12)

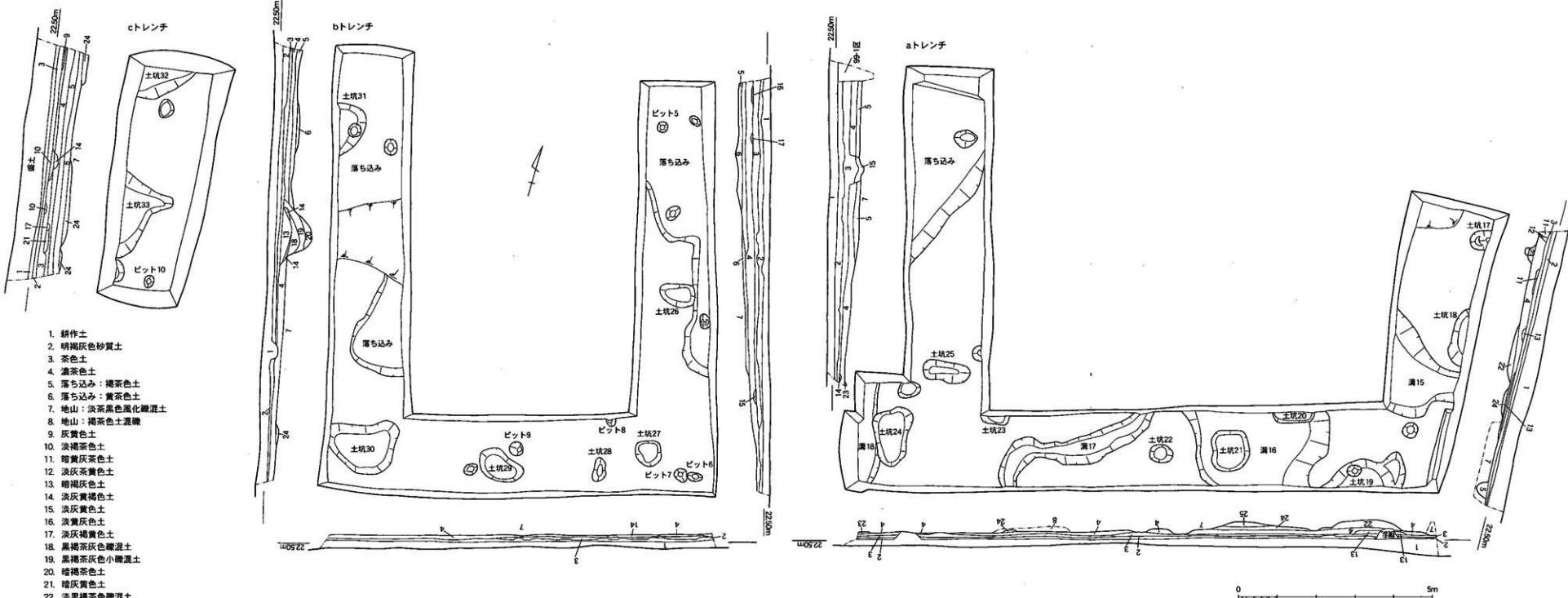
03-3	土坑、溝、ピット	サヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、製塩土器、婧壺、瓦、白磁、陶器、磁器、鉄釘	(13)
03-4		サヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、婧壺、瓦、磁器、焼土	
04-1		土師器、須恵器、土師質土器、瓦器、瓦、陶器、磁器	(15)
06-1	堅穴住居、土坑、溝、ピット、井戸	サヌカイト、縄文土器、土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、ガラス玉、古鏡、鉄製品	
07-1			
07-2	土坑	黒色土器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、製塩土器、婧壺、瓦、青磁、陶器	(16)
07-3	溝	弥生土器、黒色土器、土師質土器、瓦器、製塩土器、婧壺、焼土	(16)
07-4			
07-5	土坑、ピット	須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦質土器	(16)
07-6		サヌカイト、土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、製塩土器、管状土錐	(16)
07-7		サヌカイト、弥生土器、須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、瓦、陶器、磁器	(16)
07-8		サヌカイト、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、婧壺	(16)
07-9		土師質土器、磁器	(16)
07-10			本稿
08-1		黒色土器、土師質土器、瓦器、瓦	(18)
08-2	溝	土師器、須恵器、土師質土器、瓦器	(18)
08-3	土坑、溝	サヌカイト、縄文土器、土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器	
08-4			本稿
08-5			

## 向出遺跡関係資料

- (1) 阪南町教育委員会  
 (2) 阪南町教育委員会  
 (3) 阪南町教育委員会  
 (4) 阪南市教育委員会  
 (5) 阪南市教育委員会  
 (6) 阪南市教育委員会  
 (7) 阪南市教育委員会  
 (8) 阪南市教育委員会  
 (9) 阪南市教育委員会  
 (10) 阪南市教育委員会  
 (11) 阪南市教育委員会  
 (12) 阪南市教育委員会  
 (13) 阪南市教育委員会  
 (14) 阪南市教育委員会  
 (15) 阪南市教育委員会  
 (16) 阪南市教育委員会  
 (17) 阪南市教育委員会  
 (18) 阪南市教育委員会  
 (19) 阪南市教育委員会  
 (20) 阪南市教育委員会  
 (21) (財)大阪府文化財調査研究センター  
 (22) (財)大阪府文化財調査研究センター  
 (23) (財)大阪府文化財調査研究センター  
 (24) 小林義孝・山本建・仁王浩司  
 (25) 仁王浩司  
 (26) 山元達・仁王浩司  
 (27) 中村健二  
 (28) 川添和哉  
 (29) 岡田憲一
- 1988.3 「阪南市埋蔵文化財報告VI」  
 1989.3 「阪南市埋蔵文化財報告VII」  
 1989.3 「阪南市埋蔵文化財報告VIII」  
 1993.3 「阪南市埋蔵文化財報告X VI」  
 1994.3 「阪南市埋蔵文化財報告X V」  
 1996.3 「阪南市埋蔵文化財報告XX I」  
 1997.3 「阪南市埋蔵文化財報告XX II」  
 1998.3 「阪南市埋蔵文化財報告XX III」  
 1999.3 「阪南市埋蔵文化財報告XX IV」  
 2000.3 「阪南市埋蔵文化財報告XX VI」  
 2003.3 「阪南市埋蔵文化財報告31」  
 2004.3 「阪南市埋蔵文化財報告32」  
 2005.3 「阪南市埋蔵文化財報告35」  
 2005.3 「阪南市埋蔵文化財報告36」  
 2006.3 「阪南市埋蔵文化財報告38」  
 2008.3 「阪南市埋蔵文化財報告42」  
 2009.3 「阪南市埋蔵文化財報告43」  
 2009.3 「阪南市埋蔵文化財報告45」  
 1998.11 現地説明資料「向出遺跡」  
 2001.3 縄文シボウジム資料  
 1998.3 「向出遺跡現地説明会資料」  
 1998.11 「縄文最大級環状土壙墓群の発見－阪南市向出遺跡の墓地とまつり－」  
 「大陸文化へのまなざし」  
 「向出遺跡発掘調査報告書」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX VI」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX V」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX IV」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX III」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX II」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX I」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要X IX」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要X VIII」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要X VII」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要X VI」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要X V」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要X IV」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要X III」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要X II」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要X I」  
 「向出遺跡範囲確認調査報告書」  
 「向出遺跡」  
 「大絶文化へのまなざし」  
 「向出遺跡発掘調査報告書」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX XV」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX XIV」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX XIII」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX XII」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX XI」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX X」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX IX」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX VIII」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX VII」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX VI」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX V」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX IV」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX III」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX II」  
 「阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX I」  
 「向出遺跡」  
 「考古学ジャーナル」1996年10月臨時増刊号  
 「大阪文化財研究」第14号  
 「季刊 考古学」第64号  
 「季刊 考古学」第69号  
 「近畿・東海・中部高地・北陸地域を中心に－」  
 「関西縄文時代の集落・墓地と生產」関西縄文論集  
 「縄文時代の考古学2 歴史のものさし」  
 「2008.3 「縄文研究の現状と課題 近畿・中国・四国地方」  
 「縄文時代の考古学2 歴史のものさし」



第4圖 02-10区 第4層上面 平面図



第5図 07-10区 地面平面図・断面図

## 第2章 調査の成果

### 第1節 07-10区（第3～9図）

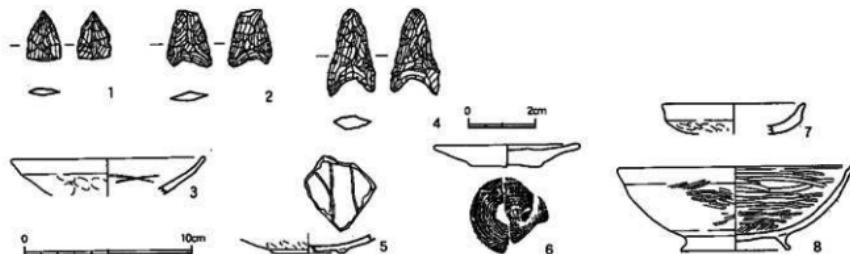
調査区は向出遺跡の南部に位置し、当教育委員会が平成11(1999)年度に行った範囲確認調査の99-1区に接する。その調査では縄文時代の遺構は検出されなかった。しかし、99-1区の南側約20m地点で、平成15(2003)年度に調査を行った03-3区では、縄文時代後期の遺構が検出されているため、その遺構の広がりを確認するため、その間に今回の調査区を設定した。

調査は「コ」字形のトレンチを2ヶ所、長方形のトレンチを1ヶ所設定して行った。それぞれ東からa・b・cトレンチとし、写真撮影の都合上、それぞれの「コ」字形のトレンチは方角により東・南・西部とした。

基本層序は第1層耕作土、第2層明褐灰色砂質土、第3層茶色土、第4層濃茶色土、第5層褐茶色土、第6層黄茶色土、第7層淡茶黒色風化礫混土、第8層褐茶色土混疊であるが、第5・6層はaトレンチ西部の北側からbトレンチの北側とcトレンチにかけて広がる落ち込みである。第7・8層は地山である。

包含層からの出土で図化し得た遺物は以下のとおりである。1・2はサヌカイト製の石鎌である。1は基部が欠損した石鎌、2は凹基無茎式石鎌で基部の抉りが浅く先端が欠損している。第1層から出土した。3は瓦器椀で、第2層から出土した。4はサヌカイト製の凹基無茎式石鎌、5は瓦器椀、6は土師質小皿で底部は糸切りで、第3層から出土した。7は土師質小皿、8は内黒の黒色土器椀で第4層から出土した。

遺構は4面で検出した。第2層上面では、各トレンチで南北方向の鋤溝を数十条検出した。埋土は第1層の耕作土である。第3層上面でも各トレンチで数十条の南北方向の鋤溝を検出した。a・bトレンチの鋤溝埋土は第2層明褐灰色砂質土、cトレンチの鋤溝埋土は灰黄色土及び淡褐茶色土である。その他、b・cトレンチで淡褐茶色土を埋土とするピットを数基検出した。いずれも近世期の遺構である。第4層上面では土坑を16基と溝を14条、ピットを68基検出した。中世期の遺構である。地山面では土坑を17基と溝を4条、ピットを19基、落ち込みを検出した。中世期の遺構である。



第6図 07-10区 包含層出土遺物

## —第4層上面検出遺構—（第4図）

### 土坑1

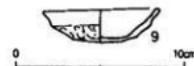
a トレンチ東部の北東端で一部を検出した。東西0.20m以上、南北0.25m以上、深さ0.30mで、埋土は上層が暗黄灰茶色土、下層は淡灰茶黄色土である。遺物はサヌカイト片、土師質土器が出土した。

### 土坑2

a トレンチ東部の北西端で検出した。東西1.20m以上、南北1.00m以上、深さ0.28mを測るが北側と西側はトレンチ外へ広がる。埋土は上層から淡灰茶色土、マンガン混じりの濃茶色土、暗褐茶色疊混土である。遺物は土師質土器、瓦器が出土した。

### 土坑3（第7図）

a トレンチ東部の北東端で検出した。東西1.00m以上、南北0.70m、深さ0.05mで東側はトレンチ外へ広がる。埋土は暗黄灰茶色土である。遺物は黒色土器、土師質土器、瓦器、焼締め陶器が出土した。9は土師質土器の小皿である。



第7図 07-10区 a トレンチ  
土坑3 出土遺物

### 土坑4

a トレンチ東部で検出した。東西1.10m以上、南北2.10m、深さ0.06mで、東側はトレンチ外へ広がる。埋土は暗褐灰色土である。遺物はサヌカイト片、瓦器が出土した。

### 土坑5

a トレンチ南部の東側で検出した。東西1.35m以上、南北0.45m以上、深さ0.10mを測るが、南側はトレンチ外へ広がり、攪乱に切られている。埋土は土坑4と同じ暗褐灰色土である。遺物は出土しなかった。

### 土坑6

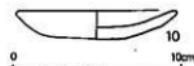
a トレンチ南部の西端で検出した。東西0.80m以上、南北1.20m、深さ0.05mで、西側はトレンチ外へ広がる。埋土は第3層と同じ茶色土である。遺物は瓦質土器が出土した。

### 土坑7

a トレンチ南部の西端で検出した。東西0.60m、南北0.40m以上、深さ0.05mで、北側はトレンチ外へ広がる。埋土は第3層と同じ茶色土である。遺物は出土しなかった。

### 土坑8（第8図）

a トレンチ西部で検出した。東西0.50m以上、南北0.80m、深さ0.36mで、西側はトレンチ外へ広がる。埋土は上層が第3層と同じ茶色土、下層が淡灰黄色土である。遺物は須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器が出土した。10は土師質土器の小皿である。



第8図 07-10区 a トレンチ  
土坑8 出土遺物

### 土坑9

a トレンチ西部の北東端で検出した。東西0.55m以上、南北0.50m以上、深さ0.07mを測るが、東側はトレンチ外へ広がる。埋土は淡灰黄色土である。遺物は出土しなかった。

### 土坑10

b トレンチ東部の北東端で検出した。東西0.45m以上、南北0.48m、深さ0.04mを測るが、東側はトレンチ外へ広がる。埋土は淡黄灰色土である。遺物は出土しなかった。

### 土坑11

b トレンチ南部の南東端で検出した。東西0.45m、南北0.27m、深さ0.04mを測り、埋土は淡灰褐色土である。遺物は出土しなかった。

### 土坑12

b トレンチ西部で検出した、ほぼ円形の土坑である。東西0.70m、南北0.80m、深さ0.05mを測り、埋土は淡灰黄褐色土である。遺物は出土しなかった。

### 土坑13

b トレンチ西部で検出した。東西1.80m以上、南北2.36m以上、深さ0.52mで、両端はトレンチ外へ広がる。埋土は上層から暗褐灰色土、淡灰黄褐色土、黒褐茶灰色礫混土、黒褐茶灰色小礫混土、暗褐茶色土である。遺物はサヌカイト片、黒色土器、土師質土器が出土した。溝の可能性もあるが、周辺のトレンチに続く溝が検出されなかったので土坑と考えられる。

### 土坑14

c トレンチの北側で検出した。東西0.60m以上、南北0.30m以上、深さ0.40mで、大部分はトレンチ外へ広がる。埋土は暗灰黄色土である。遺物は出土しなかった。

### 土坑15

c トレンチの中央で検出した。東西0.40m以上、南北0.68m、深さ0.14mを測るが、東側はトレンチ外へ広がる。埋土は第3層と同じ茶色土である。遺物は出土しなかった。

### 土坑16

c トレンチの南側で検出した。東西0.80m以上、南北0.65m以上、深さ0.12mで、大部分はトレンチ外へ広がる。埋土は第3層と同じ茶色土である。遺物は土師質土器が出土した。

### 溝1

a トレンチ南部で検出した南北方向の溝である。長さ1.30m以上、幅0.56m以上、深さ0.05mで、北側はトレンチ外へ延びる。埋土は暗褐灰色土で、ピット1に切られている。遺物は土師質土器が出土した。

## 溝2

a トレンチ南部で検出した南北方向の溝である。長さ1.75m以上、幅0.50m、深さ0.06mで、北側はトレンチ外へ延びる。埋土は第3層茶色土と同じである。遺物は須恵器、土師質土器が出土した。

## 溝3

a トレンチ南部で検出した南北方向の溝である。長さ0.62m、幅0.17m、深さ0.04mを測り、埋土は暗褐灰色土である。遺物は出土しなかった。

## 溝4

a トレンチ南部で検出した南北方向の溝である。長さ1.05m、幅0.35m、深さ0.06mで、埋土は暗褐灰色土である。遺物は土師質土器が出土した。

## 溝5

a トレンチ南部で検出した南北方向の溝である。長さ0.80m以上、幅0.35m、深さ0.06mで、北側はトレンチ外へ延びる。埋土は第3層と同じ茶色土で、遺物は土師質土器が出土した。

## 溝6

a トレンチ南部で検出した南北方向の溝である。長さ3.40m以上、幅0.70m、深さ0.04mで、南側はトレンチ外へ延びる。埋土は第3層と同じ茶色土で、遺物は黒色土器、土師質土器が出土した。

## 溝7

a トレンチ南部で検出した南北方向の溝である。東西0.25m、南北1.05m、深さ0.08mを測り、埋土は暗褐灰色土である。遺物は黒色土器、土師質土器、中世瓦が出土した。

## 溝8

a トレンチ南部で検出した南北方向の溝である。長さ0.70m、幅0.35m、深さ0.03mを測る。埋土は淡黄灰色土で、遺物は出土しなかった。

## 溝9

a トレンチ南部で検出した南北方向の溝である。長さ0.60m、幅0.15m、深さ0.05mで、埋土は暗褐灰色土で、遺物は土師質土器が出土した。

## 溝10

b トレンチ南部で検出した。南北方向の溝である。長さ0.85m、幅0.25m、深さ0.03mで、埋土は淡灰黄褐色土で、遺物は出土しなかった。

## 溝11

b トレンチ南部で検出したトレンチを横断する南北方向の溝である。長さ1.90m以上、幅1.35m、深さ0.05mで、一部を搅乱に切られている。埋土は淡灰黄褐色土で、遺物は黒色土器、土師質土器、瓦器が出土した。

## 溝12

b トレンチ南部で検出した南東から北西に延びる溝で、トレンチを斜めに横断する。溝11とピット4に切られている。長さ3.00m以上、幅1.80m、深さ0.05mで、埋土は暗灰黄色土である。遺物は須恵器、土師質土器が出土した。

## 溝13

c トレンチで検出した東西方向の溝である。長さ0.93m、幅0.19m、深さ0.05mを測り、埋土は淡灰茶色土である。遺物は出土しなかった。

## 溝14

c トレンチの南側で検出したトレンチを横断する東西方向の溝で、土坑16とピットに切られている。長さ1.70m以上、幅0.40m、深さ0.09mで、埋土は暗灰黄色土である。遺物は出土しなかった。

## ピット1

a トレンチ南部で検出した。直径0.35m、深さ0.07mを測り、溝1を切っている。埋土は第3層茶色土であり、遺物は土師質土器が出土した。

## ピット2

a トレンチ南部で検出した。東西0.15m、南北0.30m、深さ0.03mを測り、埋土は暗褐灰色土である。遺物は黒色土器、土師質土器が出土した。

## ピット3

b トレンチ東部で検出した。直径0.30m、深さ0.06mを測り、埋土は淡灰黄色土である。遺物は黒色土器が出土した。

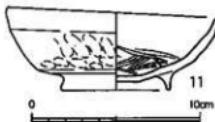
## ピット4

b トレンチ南部で検出した。直径0.20m、深さ0.05mを測り、溝12を切っている。埋土は淡灰黄色土であり、遺物は黒色土器が出土した。

### 一地山面検出遺構一(第5図)

#### 土坑17(第9図)

a トレンチ東部で検出した。東西0.50m以上、南北0.55m、深さ0.23mを測るが、東側はトレンチ外に広がる。埋土は黒褐茶色疊混土で、遺物は黒色土器、土師質土器が出土した。11は内黒の黒色土器碗である。



第9図 07-10区 a トレンチ  
土坑17 出土遺物

#### 土坑18

a トレンチ東部で検出した。東西0.40m以上、南北1.50m、深さ0.10mで、東側はトレンチ外に広がる。埋土は淡黒褐茶色疊混土で、遺物は出土しなかった。

#### 土坑19

a トレンチ南部で検出した不定形土坑。東西1.90m、南北1.00m以上、深さ0.22mで、南側はトレンチ外に広がる。埋土は淡黒褐茶色疊混土で、遺物は出土しなかった。

#### 土坑20

a トレンチ南部で検出した。東西1.05m、南北0.30m以上、深さ0.10mで、北側はトレンチ外に広がり、溝16を切っている。埋土は淡黒褐茶色疊混土で、遺物は出土しなかった。

#### 土坑21

a トレンチ南部で検出したほぼ円形の土坑である。東西0.95m、南北1.05m、深さ0.16mを測り、埋土は黒褐茶色疊混土で、遺物は黒色土器、土師質土器が出土した。

#### 土坑22

a トレンチ南部で検出した円形土坑である。東西0.60m、南北0.47m、深さ0.12mで、埋土は上層が淡黒褐茶色疊混土、下層が黒褐茶色疊混土である。遺物は出土しなかった。

#### 土坑23

a トレンチ南部で検出した。東西0.75m、南北0.20m以上、深さ0.12mを測るが、北側はトレンチ外に広がる。埋土は淡黒褐茶色疊混土で、遺物は出土しなかった。

#### 土坑24

a トレンチ南部で検出した。東西1.00m、南北1.55m、深さ0.10mで、溝18を切っている。埋土は淡黒褐茶色疊混土で、遺物は土師質土器、瓦器が出土した。

#### 土坑25

a トレンチ西部で検出した楕円形土坑である。東西1.20m、南北0.50m、深さ0.20mで、埋土は黒褐茶色疊混土である。遺物は出土しなかった。

### 土坑26

b トレンチ東部で検出した楕円形土坑。東西0.90m、南北0.60m、深さ0.11mで、落ち込みを切っている。埋土は明褐茶色土で、遺物は出土しなかった。

### 土坑27

b トレンチ南部で検出した。東西0.65m、南北0.65m、深さ0.12mで、埋土は黒褐茶色疊混土である。遺物は出土しなかった。

### 土坑28

b トレンチ南部で検出した。東西0.30m、南北0.60m、深さ0.21mで、埋土は淡黒褐茶色疊混土である。遺物は黒色土器、土師質土器が出土した。

### 土坑29

b トレンチ南部で検出した楕円形の土坑。東西1.10m、南北0.85m、深さ0.07mで、埋土は淡黒褐茶色疊混土である。遺物は出土しなかった。

### 土坑30

b トレンチ南部で検出した。東西1.80m以上、南北1.30m、深さ0.19mを測る。埋土は明褐茶色土で、遺物は出土しなかった。

### 土坑31

b トレンチ西部、落ち込みの下層上面で検出した。東西0.70m以上、南北1.30m、深さ0.13mで、西側はトレンチ外へ広がり、ピットに切られている。埋土は黄茶色土で、遺物は出土しなかった。

### 土坑32

c トレンチの北側で一部を検出した。東西1.30m以上、南北0.90m以上、深さ0.12mを測るが、大部分はトレンチ外である。埋土は明褐茶色土で、遺物は出土しなかった。

### 土坑33

c トレンチで検出した不定形土坑である。東西1.30m以上、南北2.25m、深さ0.11mで、西側はトレンチ外に広がる。埋土は明褐茶色土で、遺物は出土しなかった。

### 溝15

a トレンチ東部で検出したトレンチを横断する東西方向の溝。長さ1.80m以上、幅2.65m以上、深さ0.12mを測り、埋土は明褐茶色土で、遺物は出土しなかった。

### 溝16

a トレンチ南部で検出した。長さ3.85m以上、南北1.90m、深さ0.25mを測るが、両端が

トレンチ外に延びるため、土坑の可能性もある。土坑20・21に切られている。埋土は上層が明褐茶色土、下層は明黄茶色土で、遺物は出土しなかった。

#### 溝17

a トレンチ南部で検出した南西から北東方向の溝。長さ4.00m以上、幅0.80m、深さ0.13mで、埋土は明褐茶色土である。遺物は土師質土器が出土した。

#### 溝18

a トレンチ南部で検出した南北方向の溝で、三方がトレンチ外に広がるため、土坑の可能性もある。長さ2.80m以上、幅0.60m以上、深さ0.07mで、東側を土坑24に切られている。埋土は黒褐茶色疊混土で、遺物はサヌカイト片、黒色土器、土師質土器、瓦器が出土した。

#### ピット5

b トレンチ東部、落ち込みの下層上面で検出した。直径0.27m、深さ0.09mを測り、埋土は褐茶色土である。遺物は土師質土器が出土した。

#### ピット6～9

b トレンチ南部で検出した。直径0.25～0.35m程度のピットである。埋土はピット8が黒褐茶色疊混土、その他は淡黒褐茶色土である。遺物は各ピットから黒色土器、土師質土器、瓦器が出土した。

#### ピット10

c トレンチの南端で検出した。直径0.28m、深さ0.11mを測り、埋土は明褐茶色土である。遺物は瓦器が出土した。

#### 落ち込み

a トレンチ西部の北側及び、b トレンチの東部と西部の北側、c トレンチで検出した。99-1区の調査でも同じ土層を検出しているが、当時は肩がなかったため基本層序と認識されていた。埋土は第5層褐茶色土と第6層黄茶色土である。遺物はサヌカイト片、土師器、土師質土器が出土した。

## 第2節 08-4区

既往の範囲確認調査の98-4-1区・00-5区周辺と99-2区周辺との間には比高差約1mの東西を走る段差があり、当調査はこの段差の築造時期を調査することを目的とした。

標高差約1mの段差にかけて南北方向のトレンチを2ヶ所設定し、南側をaトレンチ、北側をbトレンチとした。また、a・bトレンチ間の法面に構築されている石垣は、現況において土留めの役割を担っていることから安全面の都合上、残して調査することにした。

aトレンチの基本層序は98-4-1区・00-5区と同じである。bトレンチの基本層序は99-2区と耕作土、地山は同じであり、報告文を進めるにあたり、便宜上aトレンチの層位番号を踏襲したため、aトレンチは第1層～第14層と続くが、bトレンチでは第2層耕作土の下は第15層と表記した。a・bトレンチで相互する層は第2層耕作土と第7層淡黄褐色粘土の地山のみであった。

### aトレンチ(第3・10・11図)

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡茶灰色土、第4層明灰茶色土、第5層濃茶色風化礫混土、第6層淡茶灰色礫混土、第7層淡黄褐色粘質土の地山である。

遺物は第2層から土師質土器、陶器、磁器、近世瓦、第3層からサヌカイト製石鎌、サヌカイト片、須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、陶器、磁器、近世瓦が出土した。12はサヌカイト製の石鎌で、凹基部分の抉りは浅く、全体的に二等辺三角形を呈し、先端は丸みを帯びている。第3層から出土した。

遺構は上層遺構として第5層上面で土坑1、溝1、ピット1を検出し、地山面で土坑2～4、溝2、ピット2～7を検出した。

#### —第5層上面検出遺構—

##### 土坑1

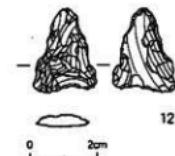
東西0.60m、南北0.85m、深さ0.15mで、埋土は茶黒色風化礫混土である。遺物は出土しなかった。

##### 溝1

トレンチに直交しており、東西方向に延びると思われ、98-4-1区・00-5区調査で報告した土坑8につながる可能性を含む。長さ1.90m以上、幅2.10m、深さ0.80mを測り、埋土は上層から黒茶色風化礫混土、灰黄褐色土、茶灰色風化礫混土である。遺物は灰黄褐色土からサヌカイト片と土師質土器が出土した。

##### ピット1

東西0.34m、南北0.52m、深さ0.10mで、埋土は茶黒色風化礫混土である。遺物は出土しなかった。



第11図 08-4区 aトレンチ  
第3層 出土遺物

## 一地山面検出遺構一

### 土坑 2

東西0.50m以上、南北0.92m、深さ0.04mで、埋土は暗茶色土である。遺物は出土しなかった。

### 土坑 3

98-4-1区・00-5区の調査において、土坑16として報告した遺構で、今回の調査で未調査の一部を検出した。東西1.36m以上、南北0.97m以上、深さ0.20mを測る、楕円形の土坑である。埋土は淡褐色風化礫混土で、遺物は出土しなかった。

### 土坑 4

東西0.75m以上、南北0.31m以上、深さ0.07mを測り、楕円形を呈する。埋土は暗褐色土で、遺物は出土しなかった。

### 溝 2

トレチ内に著しく湾曲する溝で、一部は第5層上面で検出された溝1に切られている。特に東壁付近で溝1が深くなっていたため、溝2は底部がわずかに残存する程度であった。長さ4.50m以上、幅1.50m、深さ0.30mを測り、埋土は灰茶黒色風化礫混土である。遺物は出土しなかった。

### ピット 2~6

直径0.24~0.42m、深さ0.04~0.1mで、埋土はピット2・3・6が淡灰茶色礫混土、ピット4・5が暗橙茶色土である。いずれのピットからも遺物は出土しなった。

### ピット 7

トレチの北部で検出した。直径0.30m、深さ0.06mで、埋土は淡黄茶色である。遺物は出土しなかった。

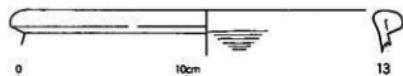
### b トレチ(第3・10・12図)

基本層序は第2層耕作土、第15層灰黄褐色風化礫混土、第16層淡灰黄色砂質土、第17層茶黒色土、第18層灰茶色風化礫混土、第7層淡黄褐色粘質土と、第19層黄茶色礫の地山である。第

7層は98-4-1区・00-5区や当該調査08-4区 a

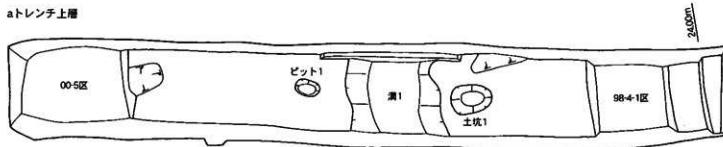
トレチと同様の地山で、第19層は99-2区調査で検出された地山と同様であり、b トレチでは両方の地山を検出した。第7層の地山は主に、トレチの東壁寄りに見られ、一部は西壁の北側にも及んでいた。第19層の地山は西壁沿いに見られた。

遺物は第2層から土師質土器、磁器が、第15層から土師質土器、瓦器が、第17層から縄文土器、黒色土器、土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器が出土した。13は瓦質土器の壺で、第17層から出土した。



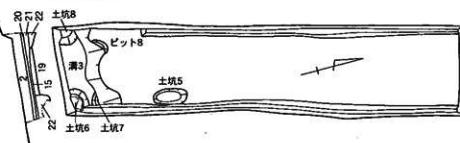
第12図 08-4区 b トレチ第17層 出土遺物

aトレンチ上層

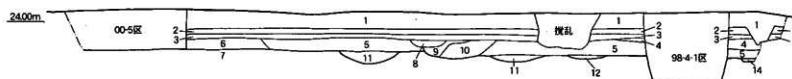


- 1. 盛土
- 2. 耕作土
- 3. 淡茶灰色土
- 4. 明灰茶色土
- 5. 混色黑色風化礫混土
- 6. 淡茶反色礫混土
- 7. 地山：淡黃褐色粘土
- 8. 溝 1 : 黒茶色風化礫混土
- 9. 溝 1 : 黄褐色土
- 10. 溝 1 : 茶灰色風化礫混土
- 11. 溝 2 : 黑茶黑色風化礫混土
- 12. 土坑 2 : 淡茶色土
- 13. 土坑 3 : 淡褐色風化礫混土
- 14. 土坑 4 : 淡褐色土

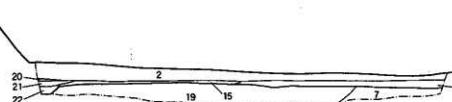
bトレンチ上層



- 15. 灰黃褐色風化礫混土
- 16. 淡灰褐色沙質土
- 17. 茶褐色土
- 18. 灰茶色風化礫混土
- 19. 地山：黄茶色標
- 20. 溝 3 : 淡黃褐色粘質土
- 21. 溝 3 : 暗灰茶色土
- 22. 土坑 6・8 : 黄褐色風化土
- 23. 土坑 7 : 黄茶色標混土
- 24. 土坑 9 : 淡黃茶色土
- 25. 土坑 10 : 淡黃灰色風化礫混土
- 26. 落ち込み : 淡茶灰色風化礫混土

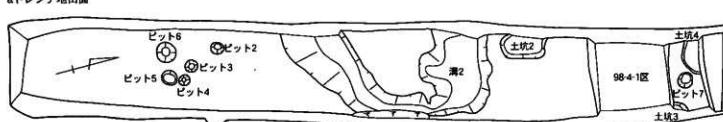


2400m

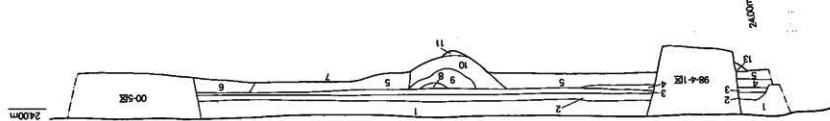
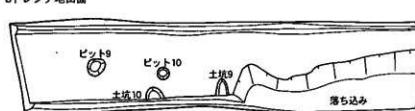


2400m

aトレンチ地山面



bトレンチ地山面



2400m



2400m



第10図 08-4 区 平面図・断面図

遺構は上層遺構として第15層上面で土坑5～8、溝3、ピット8を検出し、地山面で土坑9・10、ピット9・10、落ち込みを確認した。土坑6～8およびピット8は、溝3の堆積土を掘削した後に検出したが、検出面は第15層上面にあたる。

#### —第一15層上面検出遺構—

##### 土坑5

東西0.34m以上、南北0.7m、深さ0.09mで、埋土は淡茶灰色土である。遺物は出土しなかった。

##### 土坑6

溝3の埋土を掘削した後に検出した。東西0.50m以上、南北0.52m以上、深さ0.30m以上、埋土は灰黄色礫混土で、土坑内から0.40m角程度の石を検出した。この石材には鉄鏽痕があり、その痕跡から石を固定するために鉄釘が打たれていたと考えられる。東壁土層の状況から、土坑6は土坑7を切っていることがわかる。bトレンチの南側に位置する段差において斜面に石垣が構築されていることから、この土坑は溝3を含めて石垣の基盤にあたる可能性がある。遺物は出土しなかった。

##### 土坑7

溝3の埋土を掘削した後に検出した。壁面の土層観察により、土坑6に切られていることがわかる。東西0.53m以上、南北0.49m、深さ0.16mで、埋土は黄茶色礫混土である。遺物は出土しなかった。

##### 土坑8

溝3の埋土を掘削した後に検出した。東西0.34m以上、南北0.4m以上、深さ0.17m以上である。埋土は灰黄色礫混土で、遺物は出土しなかった。

##### 溝3

長さ1.80m以上、幅1.06m以上、深さ0.44mの東西方向の溝である。トレンチ内では北側の堀方を検出した。埋土は上層から淡黄褐色粘質土、暗灰茶色土である。遺物は暗灰茶色土からサヌカイト片、土師質土器、陶器、磁器、瓦の窯道具が出土した。

##### ピット8

溝3の下で検出した。東西0.30m、南北0.39m、深さ0.40mを測り、埋土は淡灰黄色礫混土である。遺物は出土しなかった。

#### —地山面検出遺構—

##### 土坑9

東西0.55m以上、南北0.40m、深さ0.03mを測り、埋土は灰黄茶色土である。遺物は出土

しなかった。

#### 土坑10

東西0.40m以上、南北0.38m、深さ0.09mで、埋土は淡黄灰色風化疊混土である。遺物は出土しなかった。

#### ピット9

東西0.35m、南北0.42m、深さ0.80mで、埋土は淡灰黄色疊混土である。遺物は出土しなかった。

#### ピット10

東西0.26m、南北0.40m、深さ0.07mで、埋土は淡灰黄色疊混土である。遺物は出土しなかった。

#### 落ち込み

トレンチの北半部、東壁に沿う位置で検出した、東に向かって低くなる落ち込みである。深さ0.34m以上で、埋土は暗茶灰色風化疊混土である。遺物は出土しなかった。

## 第3章 まとめ

平成10(1998)年から4年間にわたって行った範囲確認調査では、遺跡範囲内において、縄文時代の遺構はないが若干の縄文土器を出土する北部(A地区)、遺構・遺物とも検出されない中部(B地区)、遺構・遺物ともに検出された南部(C地区)に分かれていることが明らかになった。中部と南部の間には現況で1m前後の段差が東西方向に走っており、この調査以降、縄文時代の遺構は段差の高い方にあたる南部にのみに存在しているのではないかと推定されたため、段差の形成時期や段差周辺の状況が遺跡形成過程の調査における焦点となった。

平成15(2003)年、段差際の調査(03-3区)で縄文時代の遺構が確認され、段差下にも遺構が広がる可能性が出てきた。そのため03-3区と縄文時代の遺構が確認できなかった99-1区の間に本報告の07-10区を設定するに至った。この結果、堆積層は99-1区とほぼ同じで、地山面では中世期の遺構が検出された。遺物は第3層と数基の遺構から中世期の土器に混じって縄文土器とサヌカイト片や石鏃が数点出土したのみで、段差下において縄文時代の遺構が広がる可能性はさらに薄くなった。

また本報告の08-4区でも段差下では縄文時代の遺構は全く検出されず、縄文土器や石鏃、サヌカイト片が数点出土しているものの、遺構自体の広がりは見られなかった。これにより段差の存在が縄文時代にまで遡る可能性が低くなかった。

ここで段差周辺の調査について取り上げると、08-4区においてaトレンチの地山の標高は、北側の段差付近でT.P.+23.25mを測り、最高所でもT.P.+23.40mで、ほぼ平坦な地山面であることがわかった。bトレンチの地山の標高は、段差付近でT.P.+22.60mを測り、トレンチ内の地山面はほぼ水平であった。a・bトレンチ間の段差について、両トレンチ間には約1.7mの距離があり、地山面の比高差は約0.65mである。

98-4-1区・00-5区調査で第3層は近世期、第4層は中世期、第5層は平安時代の遺物包含層であることが明らかとなっており、今回の調査でもaトレンチはこれに沿うと理解する。またbトレンチの第15層は中世期以降の堆積である。両トレンチには堆積土に共通性がなく、aトレンチの第5層はbトレンチの黄茶色碟等の碟の地山を採取して、周辺の整地に用いた層という可能性が考えられ、そうすると段差は人為的に形成されたものとなり、その時期は平安時代まで遡るものと考えられる。

さらに既往の調査を取り上げると、段差上段面にあたる98-4-1区・00-5区及び03-3区では縄文時代の遺構が確認されており、段差付近でも同時代の遺構が検出されている。03-3区では地山直上層に平安時代の遺物包含層が確認されている。一方、段差下段面にあたる99-1区、99-2区と本報告の07-10区及び08-4区bトレンチでは明確に縄文時代と判断できる遺構や遺物包含層は確認されなかった。また、地山直上層には平安時代の堆積はなく、中世～近世期の堆積であると考えられる。

## 報告書抄録

ふりがな	むかいでいせきはんいかくにんちょうさほうこくしょⅡ						
書名	向出遺跡範囲確認調査報告書Ⅱ						
副書名							
卷次							
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告						
シリーズ番号	44						
編著者名	三好義三・田中早苗・上野仁・田之上裕子・横田明日香						
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課						
所在地	〒599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 072-471-5678						
発行年月日	2009年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	北緯 度	東經 度	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
向出遺跡	自然田	27232	43	34 34 59	135 25 81	20071025-20070118	150 範囲確認調査
向出遺跡	自然田	27232	43	34 34 67	135 25 86	20081020-20081209	50 範囲確認調査

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
向出遺跡	散布地	縄文時代～近世期	土坑、溝、 ピット、 落ち込み	サヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、黒色土器、瓦器、製塙土器、土師質真蛸壺、土鍤、炭、陶器、磁器、瓦	
向出遺跡	散布地	縄文時代～近世期	土坑、溝、 ピット、 落ち込み	サヌカイト、縄文土器、土師器、須恵器、土師質土器、黒色土器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、瓦、瓦窯道具	

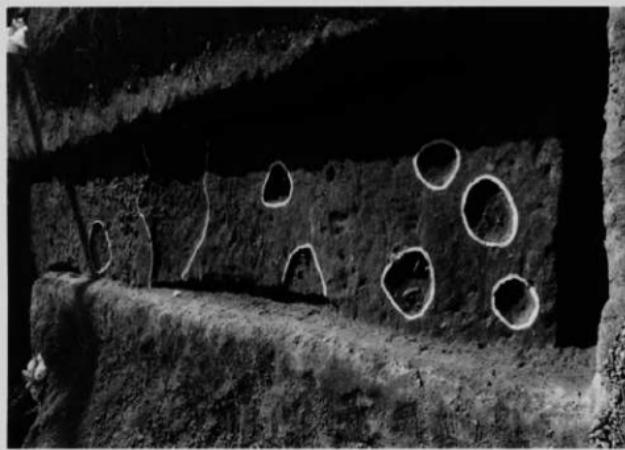




07-10区 aトレンチ西部  
第4層上面遺構(南より)



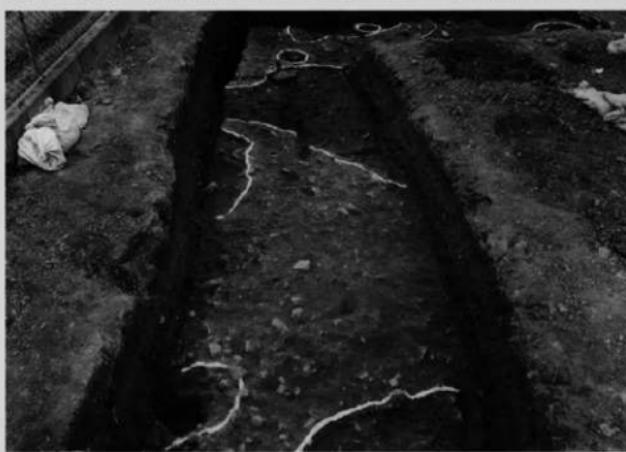
07-10区 bトレンチ南部  
第4層上面遺構(南より)



07-10区 bトレンチ西部  
第4層上面遺構(北より)



07-10区 cトレーニング  
第4層上面遺構(北より)



07-10区 aトレーニング東部  
地山面遺構(北より)



07-10区 aトレーニング南部  
地山面遺構(西より)



07-10区 aトレーニング西部  
地山面遺構(北より)



07-10区 bトレーニング東部  
地山面遺構(南より)



07-10区 bトレーニング南部  
地山面遺構(西より)





07-10区 aトレンチ南部  
土坑24 東側断面



07-10区 bトレンチ南部  
土坑30 東側断面



07-10区 bトレンチ西部  
土坑31 南側断面



07-10区 aトレンチ南部  
北側断面



07-10区 bトレンチ東部  
西側断面



07-10区 cトレンチ  
北側断面



08-4区 aトレンチ  
上層遺構(北より)



08-4区 aトレンチ  
地山面遺構(南より)



08-4区 aトレンチ  
溝2 西側断面



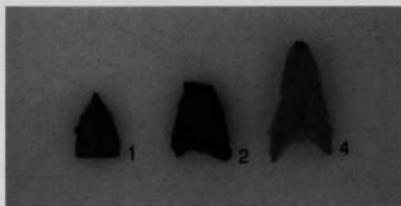
08-4区 bトレーナ  
上層遺構(南より)



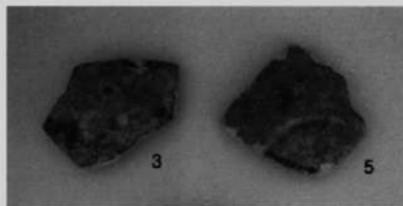
08-4区 bトレーナ  
地山面遺構(南より)



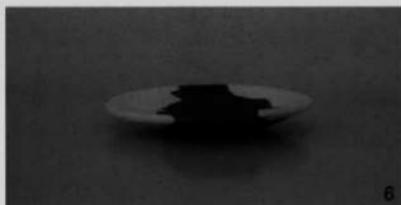
08-4区 bトレーナ  
南側断面



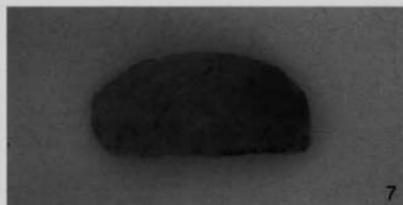
07-10区 包含層出土遺物



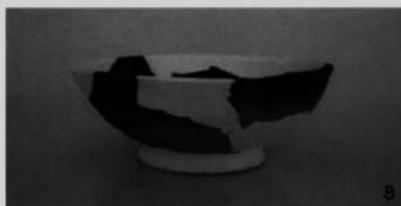
07-10区 包含層出土遺物



07-10区 包含層出土遺物



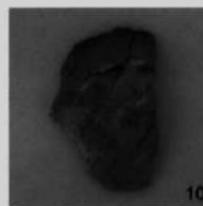
07-10区 包含層出土遺物



07-10区 包含層出土遺物



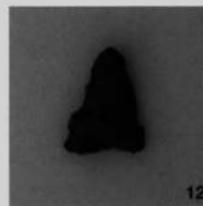
07-10区 土坑3出土遺物



07-10区 土坑8出土遺物



07-10区 土坑17出土遺物



08-4区aトレンチ 第3層出土遺物



08-4区bトレンチ 第17層出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告 44

向出遺跡範囲確認調査報告書 II

2009年3月

発行：阪南市教育委員会  
生涯学習部生涯学習推進課  
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：株式会社 帯谷印刷所  
大阪府貝塚市北町19番14号